
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

2021年度第1回研究会（通算第6回目）

日時：2021年4月17日（土）10:30-17:00

場所：オンライン

使用言語：日本語

- 大野仁美（AA 研共同研究員，麗澤大学）「グイ語の補文構造についての報告」
- 野元裕樹（AA 研共同研究員，東京外国語大学）「マレー語の補文構造についての報告」
- 塩原朝子（AA 研所員）「インドネシア語の補文構造についての報告」
- 児倉徳和（AA 研所員）「シベ語の補文構造についての報告」
- 倉部慶太（AA 研所員）「ジンポー語の補文構造についての報告」
- 木本幸憲（AA 研共同研究員，兵庫県立大学）「アルタ語の補文構造についての報告」

現在集中して取り組んでいる補文構造 (propositional framing) に関して上記メンバーが研究対象言語における現象を発表した。特に UTT (発話) 文や THINK (思考) の機能を表す文において発話動詞・思考動詞を含む述部と共起する発話内容を表す命題を表す節の統語的ステイタスを中心に議論を行った。発話内容や思考内容を表す節は多くの言語で述部の項としてのステイタスは持たず、それゆえ補文としては扱うことができないことがわかった。その場合補文標識などにより主節との従属関係が明示されている場合は「従属 SUB」、そうでない場合は「並置 PARA」と分類することになった。